

第66回大阪建築コンクール入賞発表

主催／公益社団法人大阪府建築士会 後援／大阪府

■大阪府知事賞部門 奨励賞 富田林の家

設計者 三谷勝章、柳室純（柳室純構造設計）、荻野寿也・荻野彰大（荻野景観設計株式会社）



三谷勝章
1977年7月生まれ／神戸大学工学部建設学科卒業／2003年3月 神戸大学大学院自然科学研究科建設学専攻博士課程前期課程修了／2003年4月 株式会社大林組入社「梅田クラブアトロ」2012年第46回SDA賞／「なんばSkyO」日本建築学会 作品選集2021-2022



柳室 純
1980年5月生まれ／2007年3月 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了／2007年4月 満田衛資構造計画研究所／2015年4月 柳室純構造設計開設「小浜志積プロジェクト」第32回（2021年度）北陸建築文化賞／「郭巨山会所」2023年日本建築学会賞（作品）



荻野寿也
1960年5月生まれ／1999年 第10回みどりの景観賞受賞以降、独学で造園を学ぶ／2006年 荻野寿也景観設計設立 2013年 長野県松本市景観賞受賞／2015年「三井ガーデンホテル京都新町別邸」第25回日本建築美術工芸協会賞（AACAA賞）優秀賞共同受賞



荻野彰大
1987年8月生まれ／2006年 早稲田大学理工学部建築学科入学／2012年 同大学院建築学科修士課程修了／2012年 荻野景観設計株式会社入社「ホテル ザ セレスティン 京都祇園 庭園」／「大谷さやまこども園 庭園」／「ミツフジ福島工場 庭園」／「椎木デンタルクリニック 庭園」

建築位置／富田林市 施工者／いなせ建設株式会社 構造／RC造・S造・木造 建築面積／138.56㎡
建物用途／戸建住宅 (造園)荻野景観設計株式会社 階数／地上1階・地下1階 延床面積／148.60㎡
建築主／三谷勝章 竣工年月／2021年6月 敷地面積／451.81㎡ 撮影 鳥村鋼一

〈審査講評〉閑静な住宅街の地形勾配に沿いながら矩形に中庭を囲う住宅である。床の高さ、庇や壁位置を操作し外部からの視線と室内の光環境を巧みにコントロールしている他、構造家や造園家の優れた技量に助けられながらもそれに甘えることなく上品な一つの作品としてまとめ上げている点が評価された。一方で自邸というジャンルでありながら技量の発露に留まっている点で作家としてのメッセージ性が弱く、知事賞にまでは至らなかった。（審査委員 満田衛資）

■大阪府知事賞部門 奨励賞 近畿大学6・7号館（ACADEMIC THEATER ANNEX THE GARAGE）

設計者 畠山文聡（株式会社 NTT ファシリティーズ）



建築位置／東大阪市 建物用途／学校 (共有棟・食堂・モノづくり)
建築主／学校法人 近畿大学 施工者／株式会社フジタ 竣工年月／2019年8月 構造／S造 階数／地上4階・PH1階 敷地面積／86,858.27㎡ 建築面積／3,586.46㎡ 延床面積／8,859.27㎡

撮影 津田裕之（エスエス）



畠山文聡
1974年3月生まれ
1996年3月 神戸大学工学部建築学科卒業
1998年3月 同大学大学院修士課程修了
1998年4月 株式会社NTTファシリティーズ入社
現在、西日本事業本部ファシリティソリューション部エン지니어リング部門建築設計担当部長

〔主な建築作品と受賞歴〕
近畿大学ACADEMIC THATER(1〜5号館)・国際学部棟
日本建築学会作品選奨／日本建築家協会優秀建築選／関西建築家大賞／AACAA大賞
近畿大学6・7号館（ACADEMIC THEATER ANNEX THE GARAGE）
日本建築学会作品選集／日本建築家協会優秀建築選
健康保険組合六甲山荘 日事連建築賞・奨励賞
クリニックかけはし
公共建築賞・優秀賞／中部建築賞・優秀賞／日本建築家協会優秀建築選

〈審査講評〉本作品は、近畿大学の全学・産学連携のものづくりのプラットフォームとして整備された。フラットバーの組立柱を採用した途切れない大空間と、刻々と変化する自然のうつろいを室内に伝える工夫により、創造性を刺激する室内空間を創り出している。施設整備にあたり、設計者からの提案により設置された学生対象のワークショップにより、学生目線での意見を取り入れるなど、まさにものづくりを実践した作品である。（審査委員 植野基一）

■大阪府知事賞部門 奨励賞 三宅町交流まちづくりセンター MiiMo

設計者 前田茂樹（ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ）



建築位置／奈良県磯城郡 建物用途／地域子育て支援拠点施設 建築主／三宅町 施工者／株式会社森組 竣工年月／2021年3月 構造／S造 階数／地上3階 敷地面積／1,542.28㎡ 建築面積／967.02㎡ 延床面積／1,881.56㎡

撮影 Yohei Sasakura



前田茂樹
1974年1月生まれ
1998年 大阪大学工学部建築工学科卒業
2000年 東京芸術大学大学院美術研究科中途退学
2000-2010年 ドミニク・ペロー建築設計事務所(仏)チーフアーキテクト
2010年- ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ 設立

〔主な建築作品と受賞歴〕
●もんとパーク(2020年グッドデザイン賞受賞)
●TAKARAZUKA HUTS(2020年日本建築家協会優秀建築選100作品選出)
●高浜町6次産業施設UMIKARA(2021年グッドデザイン賞受賞／2022年日本建築美術工芸協会賞入選／2022年日本建築家協会優秀建築選100作品選出)
●三宅町交流まちづくりセンター-MiiMo(場を生むデザイン賞受賞)
●(仮称)おきのすいんどパーク[徳島県立東部防災館] (awa臨港プロジェクト設計競技最優秀賞)

〈審査講評〉市役所とホールと小学校が集まる敷地での公民館の建て替えに学童保育、子育て支援機能といったこの町の老若男女が必要とする場所が集約された。にぎやかさと機能性が求められる複雑な内部環境を鮮やかに階ごとに切り分けながら、大階段で繋ぎ合わせた立体構成が見事である。一方で、おらかな庇が前面広場との繋がりをづくりながら、一階周辺での広場とのつながりが弱くなってしまったところに公共施設を開くことの難しさが感じられた。（審査委員 山本麻子）

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞

藤田美術館

SPACESPACE HOUSE + ローリングタワー屋台

富田林の家

近畿大学6・7号館（ACADEMIC THEATER ANNEX THE GARAGE）

三宅町交流まちづくりセンター MiiMo

外のない家

平井浩之

香川貴範・岸上純子

三谷勝章・柳室純・荻野寿也・荻野彰大

畠山文聡

前田茂樹

木内菜津子

奨励賞

■渡辺節賞部門 渡辺節賞

趣旨

建築士はその職責を通じて地域社会の発展に寄与し、建築美を通じて建築文化の向上、ひいては地域文化の振興にも寄与していく必要があり、その責務は重大である。

大阪建築コンクールは、建築士と社会とのかかわりを通じて建築作品を評価し、その優れた実績をたたえ、建築作品の設計者である大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の設計者を表彰する。同時に行う渡辺節賞については、新しい建築文化の原動力となる若い優れた設計者をたたえ、さらなる発展を望むものである。

募集範囲

2017年1月1日から2022年12月31日の間に竣工し、完了検査済証の交付を受けた建築物

* 建築確認申請不要物件は完了検査済証不要

* 竣工年月日は工事完了時

●大阪府知事賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

●渡辺節賞部門

対象建築：建物の種類・規模は問わない

建築位置：近畿二府四県

応募資格：設計者が大阪府建築士会正会員または大阪府在住もしくは在勤の者

完了検査済証発行日現在 39歳以下

審査委員会

委員長 橋爪紳也（大阪公立大学研究推進機構特別教授）

委員 植野基一（大阪都市整備部住宅建築局公共建築室室長）

※50音順 荻原廣高（神戸芸術工科大学准教授）

満田衛資（京都工芸繊維大学教授）

山本麻子（大阪工業大学特任准教授）

審査経過並びに総評



審査委員長 橋爪紳也

審査委員長を拝命した。総評を記す前に、審査にあたるうえでの所信を表明しておきたい。

私がかねて「大阪の建築界」の独自性を再評価し、再構築し、社会にそして世界に広く訴求することの必要性を強調してきた。近代以降、少なくとも戦後高度経済成長期までは、大阪に事務所を開き、関西各地に多くの作品を実現させて活躍

した建築家たちが多くあった。彼らはみずからが立ち上げた各種の組織を媒介として、建築設計の専門家としてさまざまな問題提起を行っていた。

戦後にあっても、大阪には独自の建築文化があった。たとえばちょうど60年前、『新建築』昭和38年2月号は、「大阪の建築と建築家」の特集を編んでいる。そこにあって浦辺鎮太郎は「大阪はもともと都会らしい都会」だと評した浜口隆一の言葉を踏まえつつ、ここには「地方建築家」はいないと述べる。大阪を拠点に活躍する建築家たちは、独自の都市文化を認識しているということだろう。そのうえで適当な広さ、適度な人口、そして一定の富力を持つ大阪では、建築家も公共精神を持ち、建築とともに建築家も健全に育ったと評価をしている。

いっぽうで村松貞次郎は、施主の注文に応じて作品をものにしつつ、大阪では他人の評価をしない「大人の建築家」が活躍していると断じ、そこに町人の街の伝統を、さらには市民社会に根を下ろした安定感を見出している。村松は、大阪を理想に近い「建築家の社会」と一定の評価をしつつも、いっぽうで斬新なアイデアや提案には乏しいという面があるという自身の見解を示した。

では現時点において「大阪の建築界」の個性は、どのように語られるのだろうか。「大阪の建築家」が文化や社会の向上に貢献する際、地域に根ざしたユニークな方法論を共有しているのだろうか。またその将来を担う若い才能は、何を志向しているのだろうか。大阪に在住もしくは勤務する建築士を顕彰する「大阪建

「大阪の建築家」の現在を把握するとともに、「大阪の建築界」の針路についての考えを深めてゆきたいと思う。

さて本年度の審査の経過について述べておきたい。今年は大阪府知事賞部門に29点、渡辺節賞部門に7点の応募があった。まず書類による1次審査を実施、投票で多くの票を集めた上位作品および個別の委員から強い希望があった10作品を実査の対象とした。そのうえで現地を訪問し設計者や施主から説明を受け、質疑応答を行った。

最終審査は大阪府建築士会の事務所で行った。多くの審査委員から優れた作品であると支持を得た作品から、全員の合意を得て2作品を「大阪府知事賞」、1作品を「渡辺節賞」とすることになった。また知事賞を贈るには全員の一致を見なかったが、複数の委員から強く推す意見があった3作品について、審査委員長

の判断によって奨励賞を贈ることとした。個別の評価については別掲の審査評を参照していただければと思う。大阪府知

■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 藤田美術館

設計者 平井浩之（大成建設株式会社 関西支店 設計部）



建築位置／大阪市都島区	竣工年月／2020年8月	建築面積／2,171.63㎡
建物用途／美術館	構造／RC造・S造	延床面積／4,214.36㎡
建築主／公益財団法人 藤田美術館	階数／地上2階・地下1階	
施工者／大成建設株式会社	敷地面積／3,305.98㎡	撮影 Akira Ito・aifoto

〈審査講評〉大阪財界の重鎮であった藤田傳三郎ゆかりの美術館を建て替えたもの。外部に開く大庇の下部空間と閉鎖的な展示室とを明確に区分しつつ、双方を繋ぐ装置として収蔵品を守り続けてきた蔵の扉を象徴として再利用している点が印象的である。ディスプレイの什器など展示空間の創意工夫も評価したい。隣地の市営公園とのあいだの塀を撤去、網島御殿と呼ばれた屋敷地を追想させるランドスケープが優れている。建屋の白さが際立つ夜景も演出も美しい。施主との話し合いを重ね、大阪の文化を継承する美術館の役割を発揮させるべく、従来にない造形を創出した設計者の意欲は知事賞に値する。（審査委員長 橋爪紳也）

事賞に選定された2作品についてののみ印象を記しておきたい。アプローチは異なるが、2作品のいずれも土地の履歴や周辺の環境を読み込んだうえで、地域の文化に根ざした優れて新しい建築を試みる意欲を強く感じる事ができた。設計者の熱意と総意工夫に敬意を表したい。

審査を通じて、歴史ある建築関連の賞としては応募作品があまりにも少ない点は課題であると感じた。「大阪建築コンクール」は、その職責を通じて地域社会の発展に貢献し、建築文化の向上に寄与する建築士を讃える表彰制度である。作品を媒介としているが、表彰者個人に贈る点において、他の建築関連の賞とは趣旨が異なる。本顕彰制度の社会的意義を改めて確認し、リブランディングを行い、より多くの志の高い設計者が応募するように社会的意義を高めることが求められる。

また審査にのぞむなかで、初期の入賞作品のなかに、すでに解体された作品が散見されることに気がついた。第1回から66年が経過しているのだから多くの

受賞作品が建て替えの時期にあることは理解されるが、賞を受けた建物が壊されるにあたって、公益社団法人大阪建築士会から、なんらかのメッセージを当時の設計者や施主に投げかけることがあるとは聞かない。私自身、初年度の受賞作である岸和田市庁舎建て替えの検討について参加した経験もあり、気になったところだ。

「大阪建築コンクール」は建築ではなく、建築を介して建築士を表彰する制度なので、その趣旨を鑑みると、いかに優れた建物であっても受賞した建物そのものの保存を訴求するといった活動の必然性はないように思う。ただ建て替えに際しては、先行する作品を凌ぐ優れた建築とすることを求めることがあって良いのではないか。いっぽうで設計図書や映像などの記録保存を要望することもあって良い。大阪さらには関西独自の建築文化を再認識するうえで、優れた建築士が関わった優れた建築物のアーカイブ化には多様なアプローチがあって良い。


■大阪府知事賞部門 大阪府知事賞 SPACSPACE HOUSE + ローリングタワー屋台

設計者 香川貴範+岸上純子（SPACSPACE 一級建築士事務所）



建築位置／大阪市北区	階数／地上2階
建物用途／事務所兼住宅	敷地面積／80.99㎡
建築主／香川貴範+岸上純子	建築面積／60.61㎡
施工者／super architects	延床面積／114.86㎡
竣工年月／2018年2月	
構造／木造	撮影 鳥村鋼一

〈審査講評〉小さな長屋の改装だが、ここで設計者が行ったのは古い建物を蘇らせただけでなく、中津の寂れた商店街という場所を選び、職住一体型住居という古くて新しい住様式に現代的な空間を与えることであった。1階の設計事務所の活動がショーウィンドウのように作り直されたファサードによって街に活気を与え、2階の家族の場がガジェットと呼ばれる装置によって生き生きと住みこなされる。都市から街路、建物そして家具に至るまできめ細やかな設計者の意図が通底した意欲的な作品である。（審査委員 山本麻子）

	香川貴範 1974年6月生まれ 1994年4月 東京工業大学工学部建築学科入学 1998年3月 // 卒業 2000年3月 東京工業大学大学院修士課程修了 2000年4月 株式会社坂倉建築研究所入社 2006年11月 株式会社坂倉建築研究所退社 SPACSPACE 一級建築士事務所開設 現在に至る
-------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	岸上純子 1979年5月生まれ 2000年4月 関西大学工学部建築学科入学 2004年3月 // 卒業 2006年3月 神戸大学大学院修士課程修了 2006年4月 株式会社坂倉建築研究所入社 2010年3月 株式会社坂倉建築研究所退社 SPACSPACE一級建築士事務所参加 現在に至る
-------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

〔主な建築作品と受賞歴〕
2012年 第58回大阪建築コンクール 渡辺節賞/Dアパートメント
2013年 日本建築士会連合会賞 奨励賞/地面と屋根上の家
2017年 第18回宇都宮市まちなみ景観賞/君岡鉄工宇都宮工場
2019年 平成31年日本建築士会連合会賞 奨励賞/SPACSPACE HOUSE
2019年 日本空間デザイン賞 銀賞/SPACSPACE HOUSE
2020年 日本建築学会 作品選集2020/SPACSPACE HOUSE


■渡辺節賞部門 渡辺節賞 外のない家

設計者 木内菜津子（一級建築士事務所 nua）



建築位置／奈良市	竣工年月／2022年2月
建物用途／戸建住宅	構造／木造
建築主／本木昌裕	階数／地上2階
施工者／株式会社岩鶴工務店	敷地面積／271.18㎡
竣工年月／2022年2月	建築面積／138.12㎡
構造／木造	延床面積／250.25㎡
撮影 小川重雄	

〈審査講評〉隣接建物との関係や周辺環境の将来変化、鹿の侵入抑制まで考えて配置されたボリュームに、地域に開かれたフリースペースでのにぎわいが透けて浮かび上がる。また、通り庭のようなスロープを通じ奥へと促されると、季節や時間の移ろいを演出する壁面の自然光とともに、屋外から屋内、パブリックからプライベートへつながる連続性と領域性の交差が心地よい。この屋内外を通じた巧みな空間操作について、特に高く評価された。（審査委員 荻原廣高）

	木内菜津子 1986年8月生まれ 2005年4月 京都工芸繊維大学工学部造形工学科入学 2009年3月 // 卒業 2009年4月 大阪市立大学大学院生活科学研究科生活科学専攻前期博士課程入学 2011年3月 // 修了
---------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2011～16年 arte空間研究所 勤務を経て2017年 nua設立

〔主な建築作品と受賞歴〕
2023年 火の山屋外展望デッキ設計競技 優秀賞
2023年 或橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペティション ファイナリスト
2023年 Bauwelt Award 2023 The 14 additional shortlisted projects
2022年 KMEW DESIGN AWARD 2022 近畿エリア優秀賞
2020年 立田山憩の森・お祭り広場公衆トイレ公開設計競技 選外佳作